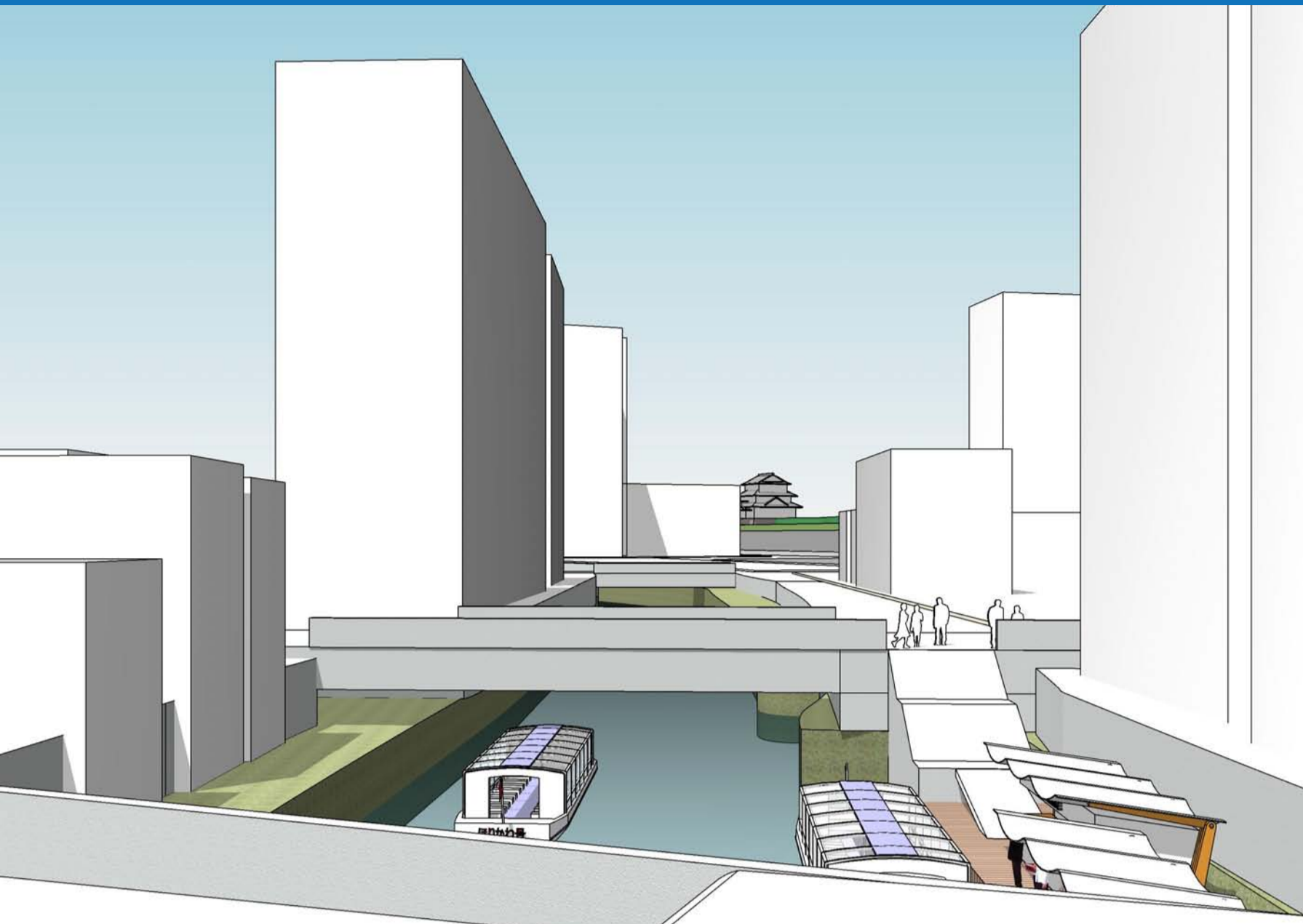


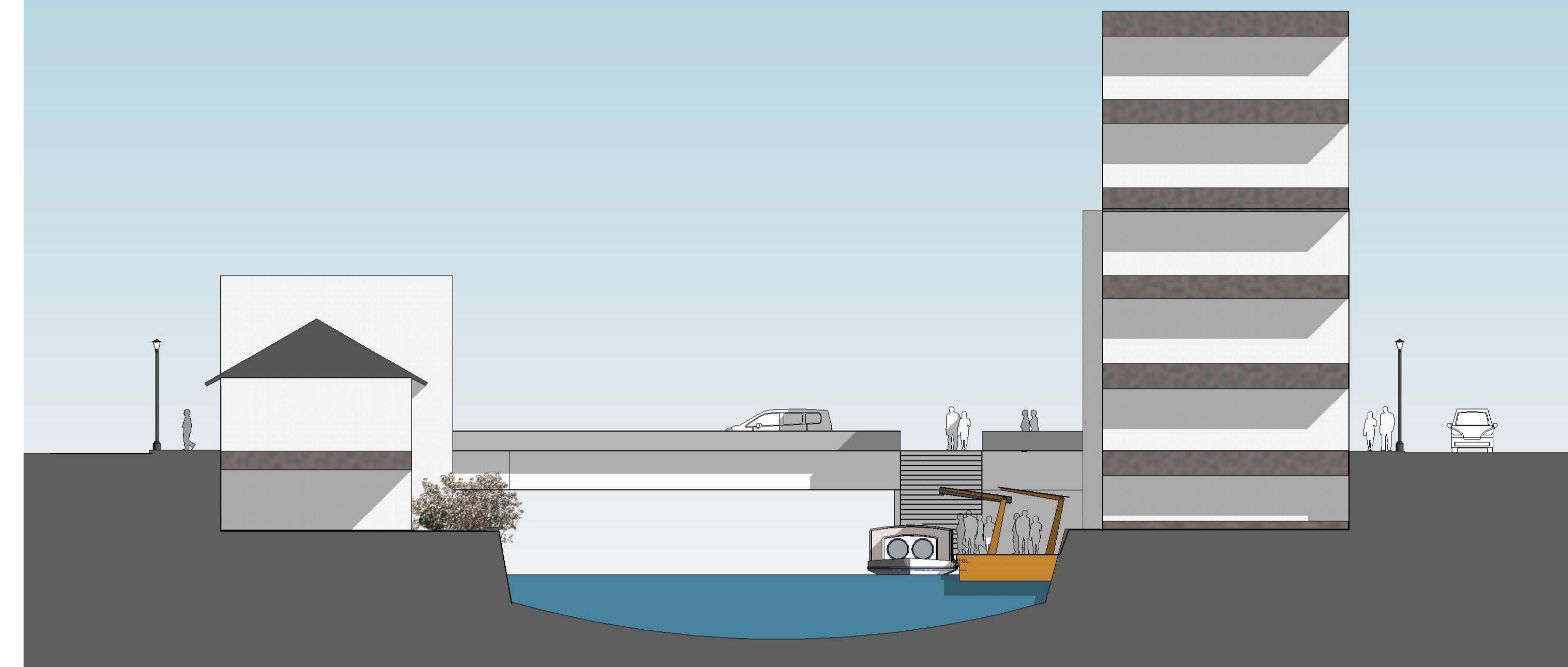
堀川の再生

朝日橋船着場

ウッドデッキの北側の起点として現況の船着場を、名古屋城木造復元に合わせ拡充し、多くの観光客の水辺から名古屋城へのメイン動線とする。



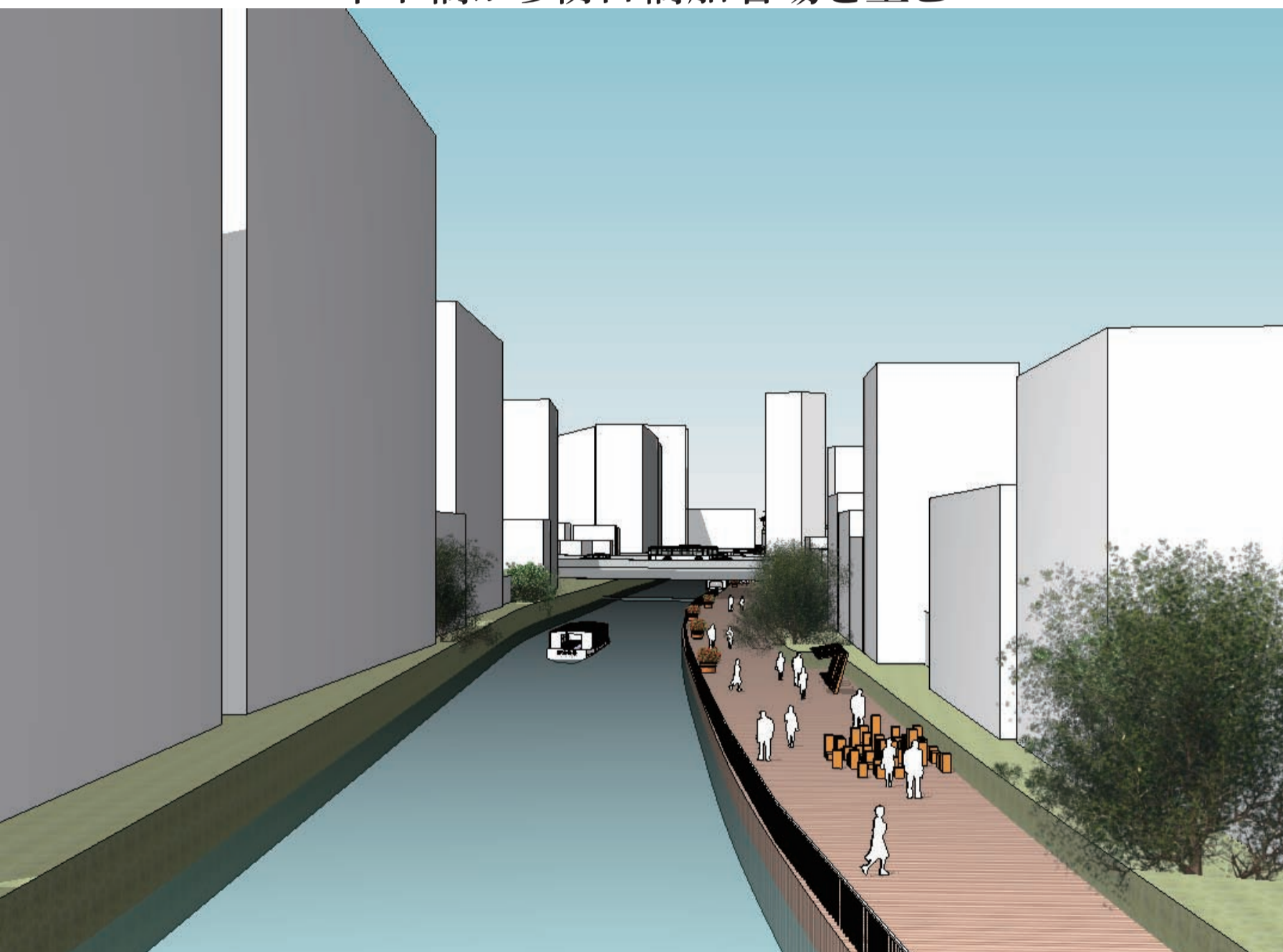
巾下橋から朝日橋船着場を望む



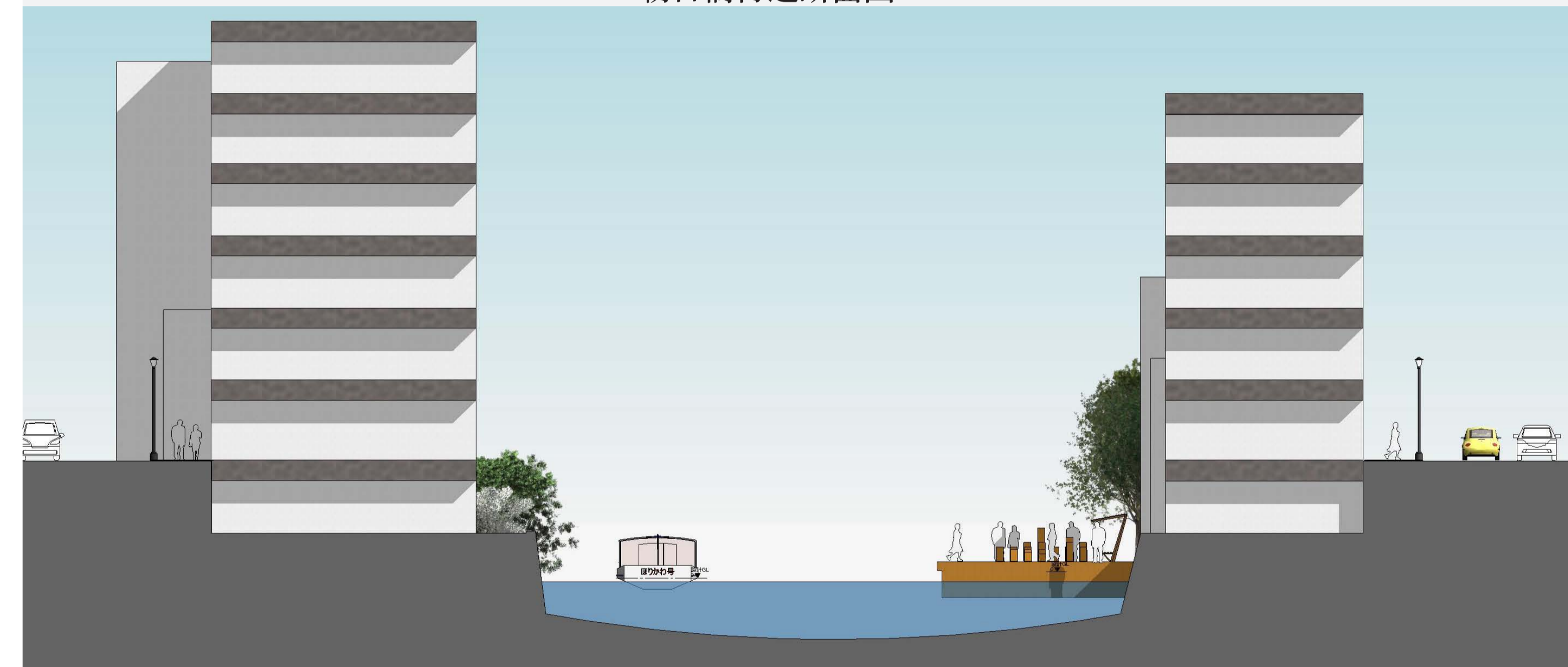
朝日橋付近断面図

景雲橋北付近

“歩きたくなる堀川”にする為に、幅7mのウッドデッキを設け、そこでは木で創る様々なアートを展示することでフィールド・ミュージアムとしても活用できる。



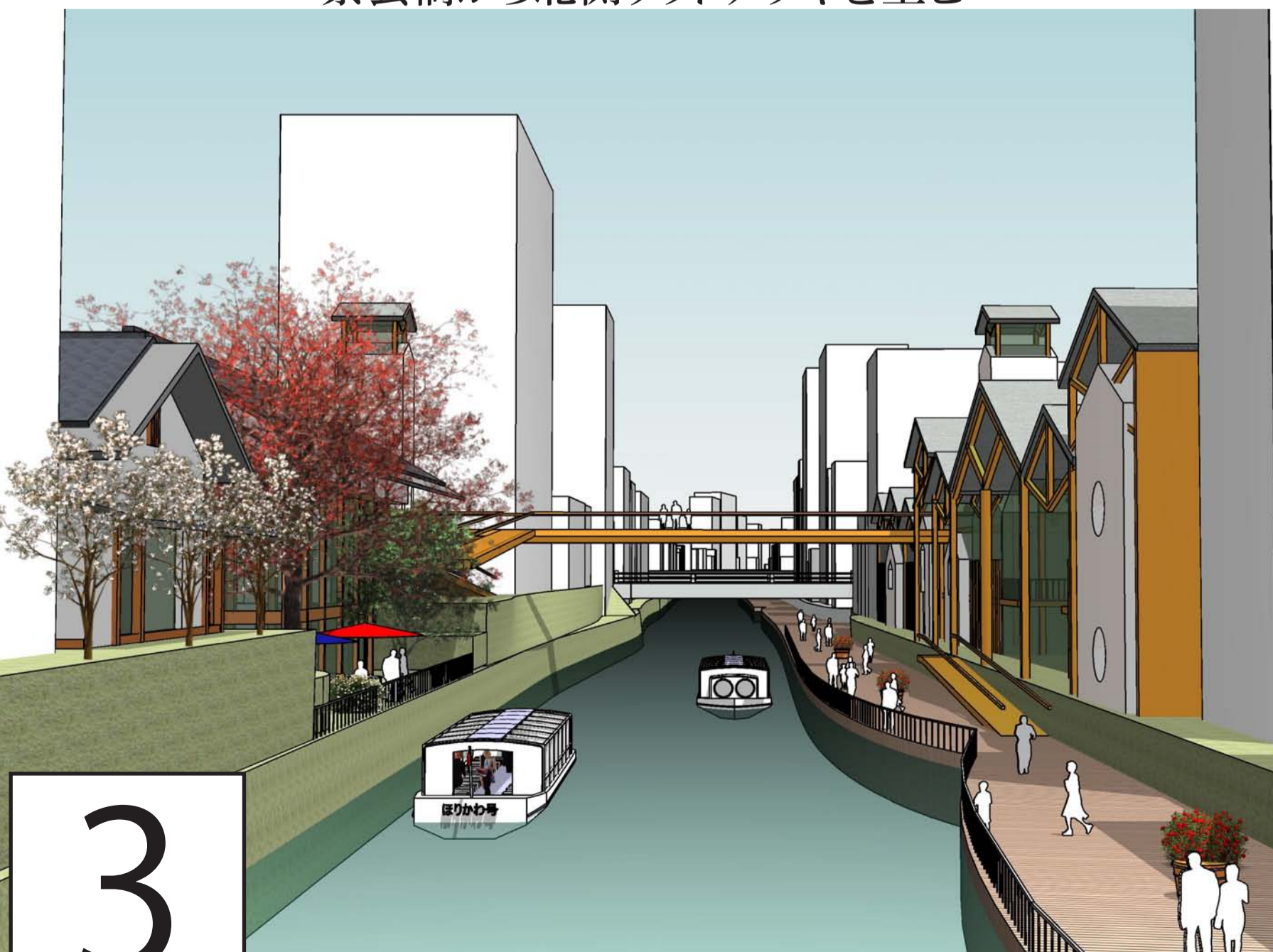
景雲橋から北側ウッドデッキを望む



景雲橋北付近断面図

木のミュージアム付近

かつて五條橋から伝馬橋にかけての堀川東岸は、多くの材木屋が並んでいた。(旧町名：木挽町・元材木町・下材木町)一方西岸は、今も残る川伊藤家や青木家等の米・塩・油を扱う商家が多くあった。この町並みを少しでも復元する為に、五條橋の南側の堀川の東西両岸の整備可能な範囲で“木のミュージアム”と両岸を結ぶ木の“人道橋”を提案する。



木のミュージアム付近を望む



木のミュージアム付近断面図